



2023年 6月2日 金曜日
(令和5年)

知技の創造

ものづくり大学発

▷91◁

英語を習得するには、ただが重要である。語彙(こい)や文法を多く知っているのみでは不十分であるが、自身は、「英語を学ぶ」としての語彙知のもの」の専門家、つまり通識を基に適切なものを選び、訳や翻訳者ではなく、大学院文法という「設計図に従い、で「英語学(言語学を英語学「組み立て」、場面や相手と対象に研究」専門で、研究の關係で適切に使う)「取扱」という立場から英語をみてき説明書」(こ)が必要で、あ。婦のバスの時間待ちでる意味「ものづくり」と類似した大学の図書館で出合点がある。また、異文化理解 った「英語学概論」という一や使う人の文化的価値観(背 冊の本にとっても興味を持ち影景知識)を知ることを円滑響を受けたのが始まりで、研なコミュニケーション上必要 究の道に入り今に至っている。そのためには、さま

さまざまな英語の様相を知ること 日本語に古典があるよう

に、「古英語から現代英語 変化している。

への変遷がある。5世紀にイギリスへ移住したアングロサクソン人の支配、そしてバイキングの侵略やノルマン征服などの歴史的出来事に影響され語彙が変わり、さらに「大

い部分が存在する。世界の言語は数千もあると言われているが、消滅したあるいは消滅している言語もある。言語は、変化するものであり、若者言葉や「はやり」の言葉の中にも、徐々に定着し、文

英語を学ぶには、英文法・表現の習得のみではなく、その背景にあることを総合的に知ることも重要である。日本語と比較すると、英語は発音の仕方、ものの見方などの「文化知識」という点だけで「世界観」が日本語とは異なる部分があり、異分野の人との円滑なコミュニケーションを行う上で、言葉のみでなく文化や社会を知ることが必要と

土井香乙里 情報メカトロニクス学科講師

広い視点での英語学習

母音推移」という中英語と近親感あるいは方言のように構代英語にかけて起った母音を中心とする音の変化により、後世で私たちが英語学習で苦労する「つづり文字と音のすれ」にも歴史があること



稲田大学大学院などで学び、早稲田大学人間科学芸術院(人間情報科学科) 助手などを経て、現職。専門は、言語学・応用言語学。